
八月十四日。

午雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

八月十四日。

【Nコード】

N8524V

【作者名】

午雲

【あらすじ】

太平洋戦争、最期の日は、突然に訪れた。隊長は自決を宣言して、残った隊員たちに解散を命じる。しかし、ー。

昭和二十年の夏。

今年は雨が少ない年だった。

某・空軍基地。

絶望的な戦況の中、

今日も特別攻撃隊が出撃の時を待って居た。

八月十五日。

正午を期して、たった一台のラジオから、玉音放送が流れた。

上司が次々と居なく為って、

最期に残った、隊長がいう。

「俺が自決したら、隊員各自は帰って可し。」

隊員たちの間に、悲痛な空気が流れる。

「隊長殿！」

「なんだ。」

「自決は、しばらくお待ち下さい！」

「なぜ？」

「隊長殿が自決しては、我々を見送る者がありません。」

「……」

隊長は、口を結ぶ。

共に死のうと誓った仲間。

何処へ帰ろうと、止める事は為し得なかった。

「進退は各自の判断に任す。」

隊長の最期の命令、それを告げる声が、この一隅に響いた。

空母からの連絡を受けて、敵軍の総督は憤った。

< 八月十五日、ナホ敵襲アリ。カミカゼ。 >

< 八月十六日、ナホ敵襲アリ。カミカゼ。 >

「な、なんたる事だ！？」

「無条件降伏を表明した後に、まだ攻撃を仕掛けて来るとは、――！」

「？」

「国際法・違反である！」

「日本人の精神年齢はティーンネイジャーだ！」

(ジャップめがッ)

昭和三十三年、

特別攻撃隊、その隊員たちの名誉は回復され、
もれなく叙勲の栄誉を賜った。

ただし、戦死した日付けは、

「八月十四日。」

その日を最後とし、

その日を越えて記す事は無かった。

(了。)

(後書き)

太平洋戦争・末期の様相については、故・城山三郎の作品に詳しく描かれて居ります(合掌)。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8524v/>

八月十四日。

2011年10月5日14時58分発行